



ゆうすい

嘉島西小学校 学校便り

令和5年10月25日
文責：校長 江上 知男



警察からの指導

「不審者対応」訓練を実施！

10月20日(金)に、御船警察署の協力を得て、「不審者対応」訓練を実施しました。

「学校は安全な場所であるべき」と強く思っていますが、多くの人の「集いの場」でもある学校で、それを維持するのは極めて困難です。本県ではありませんが、過去には凶悪犯が学校で事件を起こした例もあります。

そこで、「もしも」に備えて訓練を実施し、警察官に評価をしていただきました。

- 先生たちの動きは「相手を刺激しない」「子どもを守る」という点から、非常に良かった。
- 「初期対応」が何より大切だ。違和感を感じたときは、その時点で「嘉島西小ですが、はっきりしないのですが、ちょっと変な人が入って来て…」等の110番通報をする。
- 対応するときは、できるだけ距離をとる。今回学校は「さすまた」で対応した。「自分の身を守る」「相手を必要以上に刺激しない」の両立は難しい。臨機応変な対応が求められる。
- 訓練をする意味は、万が一の時に「行動できる」ため。年に1回の訓練は必要だと考える。

今後、保護者や地域の方々に、本校職員から「大変失礼ですがどちら様でしょうか」という類いの声かけをさせていただくことがあるかも知れません。そんなときは、「学校の安全を守ろうと思っているのだな」とご理解いただき、どうか失礼をお許しください。ご協力をお願いします。

5年生が「水俣病」で学ぶ！

「きちんと『水俣病』と出会わせたい!」という担任の思いから、5年生は9月29日(金)に水俣での「現地学習」を行った後、学習発表会に向けて、様々な角度から学んだことの「まとめ」をしているようです。

「水俣病」についてはご存知の方も多いと思いますが、チッソという水俣の工場が、きちんと科学的な処理をせず海に流したメチル水銀を原因とする「公害病」です。メチル水銀は、魚や貝を経て、それを食べた人間の中枢神経(脳・脊髄)を破壊し、多くの人の命を奪ったり、深刻な後遺症を残したりしました。また、母親の胎盤を通して、生まれながらに障がいをもつ胎児性患者を生み出しました。

今年で公式確認から67年という長い歳月を経た今も、多くの被害者が病に苦しみ、差別や偏見に傷つき、裁判が続いているという現実があります。命や健康よりも経済成長を優先する社会構造のゆがみを象徴するかのごとく起こった「水俣病」問題は、決して「過去の出来事」ではなく、今を生きる私たちにも、いろんなものを突きつけます。例えば、「地球温暖化の問題」や「SNSによって起こる様々な問題」は、「根っこ」の部分が同じように思えます。

5年生は今回とても貴重な経験をしました。もちろん、「水俣病で学ぶ」ことは大切なことですが、子どもたちには、「実は似たようなことは身の回りにあり、学んだことを活かす必要がある」ことに気付いてもらうためにも、ぜひ「水俣病で学ぶ」という感性を持って欲しいと願っています。



水俣での学習(5年)